

平成 24 年 11 月 16 日

横浜みなと博物館

14 : 00～17 : 00

地盤工学会関東支部

江戸期以降の土木史跡の地盤工学的分析・評価に関する研究委員会

平成 24 年度第 3 回委員会 議事録

出席者：正垣委員長、金田幹事、太田委員、菊地委員、中山委員、昌子委員、小野日出男委員、田中委員、川辺委員、藤井委員、小野田委員

欠席者：大里幹事、末岡委員、内藤委員、坂梨委員、菅野委員、倉岡委員、小野諭委員、西岡委員、笠委員、土倉委員、内田委員、土門委員、原委員、渡邊委員、田頭委員、

委員会の進行は次の順番で行われた。

1. 委員長の挨拶
2. 前回議事録の確認をして、承認された。
3. 配布資料の確認
 - 2-1 地盤工学会関東支部 江戸期以降の土木史跡の地盤工学的分析・評価に関する研究委員会 第 3 回 議事次第
 - 2-2 委員会の方向性についてのメモ
 - 2-3 絵葉書（横浜）
 - 2-3 土木技術アーカイブズ（第 27 回）
 - 2-5 棧橋の参考資料（取扱注意）
 - 2-6 地盤情報（大棧橋付近）
4. 各 WG の経過報告・審議
 - (1) 港湾 WG（藤井委員）
 - ・藤井委員から横須賀ドライドッグの写真測量についての説明があった。
 - ・笠委員にかわり正垣委員長から城壁の石積みに関する変形解析についての提案があった。
 - ・変形手法がオーソライズされているかが重要なので引き続き検討していく必要があるとの意見がでた。
 - (2) 地下空間 WG（中山 WG 長）
 - ・講演会についての報告があった。引き続き貝山地下壕の調査を行うことが報告された。
 - (3) 地上構造物 WG（小野 WG 長）
 - ・WG での報告があった。地上構造物 WG は多岐にわたるが、それぞれ調査・研究することが報告された。
 - ・地上 WG で用水や護岸・堤防も含めたらどうかという意見があった。
5. 今後の委員会活動と最終成果の方向性
 - (1) 講演会の反省
 - ・成功裏で終わったことが報告された。
 - ・横須賀市は歴史に興味があるかとの質問があり、横浜に比べればそれほどでもないが、多くの人を呼べるような環境にしたいとの考えがあるのでは、との意見があった。
 - ・60～80 代のボランティアの人が助けてくれた。これらの方々は横須賀にずっと住んでいるというよりは他の地域から移り住まわれた方が多く、横須賀を知りたいという思いで参加されている。

- ・若い人にもっと興味を持ってもらいたい。
 - ・建築は古い建物は基準に合わないために壊して作りなおす一方で、寺や石垣等は保存している。それはなぜか？ 法律の壁があるかもしれない。委員会で取り扱ってもいいのではないか。
- 建築では基準が古い建物は指導という形をとっている。

(2) 公益信託 大成建設自然・歴史環境基金助成金の活用について

- ・大成建設自然・歴史環境基金助成金が採択され、研究活動費として H25 年 10 月程度までに 31 万円あることが報告された。年度を跨ぐと経理が複雑になるため、この経費は H25 年度に使用することが確認された。
- ・使用目的について、外部資金なので委員会に参加している会社に調査費用として使用することができるのか確認したほうがよい、との指摘があった。
- ・アルバイト代として使用したらどうかとの意見があった。

(3) 今後の方向性について

- ・土木学会で歴史遺産についてのデータベースがある。その中で地盤関係を pickup したデータベースを作成したらどうか、と意見があった。
- ・データベースは専門家としての見識が薄い面もある。
- ・数が多いためテーマを絞ったほうがいいのではないか。
- ・各 WG でデータベースに関する方向性を示すという意見があったが、どの程度まで調べるかが不明確なため、委員長が検討し次回委員会で審議することとなった。

6. 報告事項

(1) 科研費の申請について

- ・文部科学省科学技術研究費基盤 B に当委員会として応募したことが委員長から説明があった。

(2) 講演会、学会誌の関東支部特集号について

- ・講演会について関東支部のニューズレターに投稿したことが報告された。また、地盤工学会誌への投稿の準備をしていることが報告された。

以上